

こどもの未来応援基金

令和6年度活動事業報告書

こどもの未来応援国民運動推進事務局



こどもの未来応援国民運動

も く じ

■	ご挨拶	1
■	「こどもの未来応援基金」について	2
■	「令和6年度 未来応援ネットワーク事業」に関する活動	3
■	「令和6年度 未来応援ネットワーク事業」実績報告、活動の成果	4
■	基金の財務状況	5
「令和6年度 未来応援ネットワーク事業」活動レポート		
■	①様々な学びを支援する事業	
■	NPO法人 学び場子ども食堂(三重県) 教育で恩返し 元校長がつくった放課後の学びの場	6
■	②居場所の提供・相談支援を行う事業	
■	一般社団法人 うみのこてらす(徳島県) 小さな町で切れ目ない支援活動へ 持続可能モデルを徳島から	8
■	くっちゃん子ども子育て応援し隊 Popke Lab(北海道) 地域で子育てサポート こどもたちが「住み続けたい」と思う町に	10
■	③衣食住など生活の支援を行う事業	
■	NPO法人 やまがた絆の架け橋ネットワーク(山形県) こどもたちの「食」と「学び」地域の絆で支える	12
■	認定NPO法人 LivEQuality HUB(愛知県) シングルマザー世帯に、住居の提供と自立の支援を	14
■	④児童又はその保護者の就労を支援する事業	
■	一般社団法人 こもれび(大阪府) 不登校・困窮家庭の中高生に届けた「働く体験」の3年間	16
■	⑤児童養護施設等の退所者等や里親・特別養子縁組に関する支援事業	
■	一般社団法人 福祉とデザイン(福岡県) こどもが大人と一緒に理解する 里親制度のカードキット	18
■	⑥新たな社会課題や支援ニーズに対応した事業(若年妊婦支援、ヤングケアラー支援、若者支援など)	
■	あじさいの集い富士見(東京都) こども食堂、フードパントリー、学習支援 地域に応じた多角的な支援活動を展開	20
■	⑦その他、貧困の連鎖の解消につながる事業や、こどもの貧困の背景に存在する様々な社会的要因の 解消にも資する事業	
■	NPO法人 ハッピーサポートプリママ(長崎県) フードパントリーとこども食堂 ニーズに寄り添い自然体で支援	22
■	こどもたちや保護者の声	24
■	「令和6年度 未来応援ネットワーク事業」支援団体一覧	30
■	ご協力いただいた企業	35

ご挨拶

こどもの未来応援基金にご寄付をいただいた皆様に心より感謝を申し上げます。

本基金は、平成25年6月の「子どもの貧困対策の推進に関する法律」の成立、平成26年8月の「子供の貧困対策に関する大綱」の決定を受け、こどもの貧困対策を官公民の連携・協働プロジェクトとして推進する観点から、平成27年10月に創設されました。本基金の創設以来、企業や個人から広く寄付を募り、貧困による困難に直面するこどもたちを支える草の根の活動を実施している団体への支援を継続しています。

令和5年に「こども家庭庁」が発足し、こども施策に関する基本的な方針、重要事項、こども施策を推進するために必要な事項について定める「こども大綱」が策定されました。こども大綱の本文では、「今この瞬間にも、貧困によって、日々の食事に困るこどもや、学習の機会や部活動・地域クラブ活動に参加する機会を十分に得られないこども、進学を諦めざるを得ないなど権利が侵害された状況で生きているこどもがいる。こどもの貧困を解消し、貧困によるこうした困難を、こどもたちが強いられることがないような社会をつくる。」とこどもの貧困対策について明記されました。さらに、令和6年には「子どもの貧困対策の推進に関する法律」が改正され、「こどもの貧困の解消に向けた対策の推進に関する法律」として、こどもの貧困を「解消する」という目的が明示されました。

昨今、食料品を始めとした物価高により、国民生活に様々な影響が生じています。こうした中においても、常にこどもの最善の利益を第一に考え、こどもの健やかな成長を社会全体で後押ししなければならないと考えております。本基金ではこれまで、全国の団体の皆様から、「支援を得ることで、行政や地域の信頼を得ることができ、団体の活動が大きく前進しました」、「こどもたちの権利を守っていく上で、この事業は必要不可欠」といった声をお寄せいただきました。こうした声に接する中で、これからも、こどもたちを支援する環境を社会全体で支援していくための一助として、本基金の意義を改めて認識しているところです。

寄付者の皆様のご支援に改めて感謝を申し上げますとともに、お預かりした寄付金の活用成果について、本事業報告書をもってご報告いたします。

令和8年3月 こどもの未来応援国民運動推進事務局
[こども家庭庁、文部科学省、独立行政法人福祉医療機構]

「こどもの未来応援基金」について

沿革

平成27年10月、「こどもの未来応援基金」は、こどもの貧困対策に係る官公民の連携・協働プロジェクトとして創設されました。

こどもの貧困の状態を放置することにより、こどもたちの将来が閉ざされてしまうだけでなく、社会的損失にもつながることから、困難に直面したこどもたちを支える民間の活動を支援するため、寄付金を原資とした本基金を創設し、平成28年より「未来応援ネットワーク事業」として支援金の交付を継続しています。

令和6年度の支援金の使途については、①様々な学びを支援する事業、②居場所の提供・相談支援を行う事業、③衣食住など生活の支援を行う事業、④児童又はその保護者の就労を支援する事業、⑤児童養護施設等の退所者等や里親・特別養子縁組に関する支援事業、⑥新たな社会課題や支援ニーズに対応した事業(若年妊婦支援、ヤングケアラー支援、若者支援など)、⑦その他、貧困の連鎖の解消につながる事業や、こどもの貧困の背景に存在する様々な社会的要因の解消にも資する事業とし、外部有識者等で構成される審査委員会において申請内容を審査の上、支援先を決定しました。

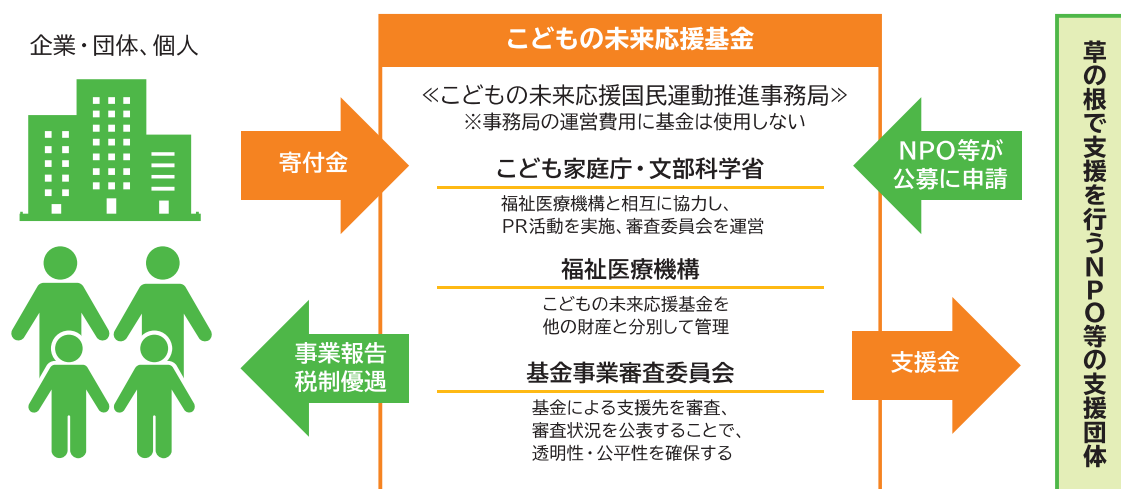
平成27年4月 **「こどもの未来応援国民運動」発起人集会**
関係閣僚や経済界、教育・福祉関係者など様々な分野から発起人が集い、民間資金による基金創設を検討することなどを決定しました。

平成27年10月 **「こどもの未来応援基金」を創設**
「こどもの未来応援基金」の寄付を募る活動を始めました。

平成28年7月～ **未来応援ネットワーク事業の公募を開始**
年1回、全国から公募し、支援団体が活動しています。

「こどもの未来応援基金」の管理・運用体制

「こどもの未来応援基金」は、こども家庭庁、文部科学省、独立行政法人福祉医療機構により構成する「こどもの未来応援国民運動推進事務局」が管理・運用しています。



■「こどもの未来応援基金」事業審査委員会

「こどもの未来応援基金」により行う支援事業については、支援先となる団体を公募し、その申請内容について「こどもの未来応援基金」事業審査委員会において審査の上、決定しました。本報告書に掲載の令和6年度事業は、以下の委員に審査していただきました。

[委員]

板谷 ゆり	児童養護施設一陽児童指導員
川副 馨	滋賀県健康医療福祉部子ども・青少年局家庭支援推進室室長
川那部 留理子	株式会社大和証券グループ本社経営企画部サステナビリティ推進室長
◎ 草間 吉夫	新島学園短期大学准教授
小山 遊子	株式会社イトーヨーカ堂経営企画室サステナビリティ推進部総括マネジャー
佐藤 まゆみ	淑徳大学短期大学部教授
中原 賢一	大田区社会福祉協議会事務局長
松永 朋美	横浜市子ども青少年局子ども福祉保健部担当部長
水橋 誉	放課後NPOアフタースクール
宮本 みち子	放送大学名誉教授・千葉大学名誉教授

(五十音順、敬称略。◎は委員長。役職は令和6年1月時点)

「令和6年度 未来応援ネットワーク事業」に関する活動

令和5年 8月

- 「こどもの未来応援基金」事業審査委員会において「令和6年度 未来応援ネットワーク事業」の実施について審議。
- 「令和6年度 未来応援ネットワーク事業」による支援団体を公募。
(募集期間:8月10日~9月19日)

令和5年 12月

- 「こどもの未来応援基金」事業審査委員会において「令和6年度 未来応援ネットワーク事業」による支援対象を審査。

令和6年 1月

- 「令和6年度 未来応援ネットワーク事業」による支援団体を公表。

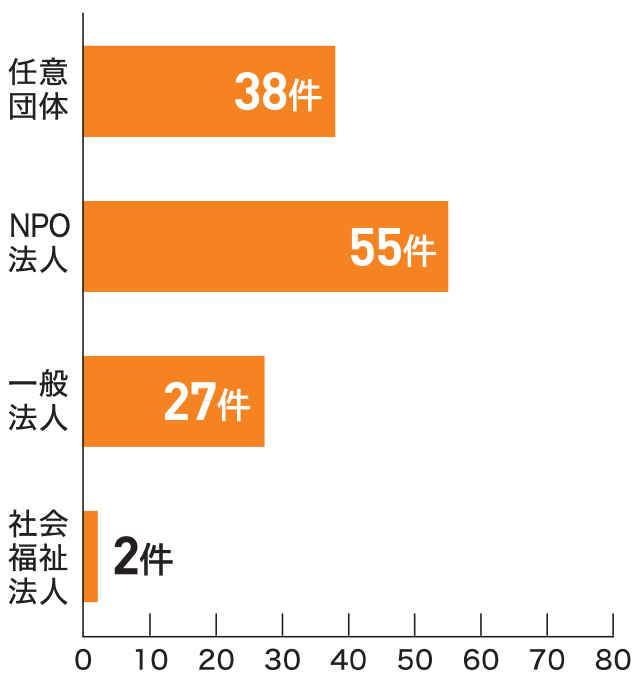
「令和6年度 未来応援ネットワーク事業」実績報告

令和6年度は、全国の122団体にに対し支援を行いました。

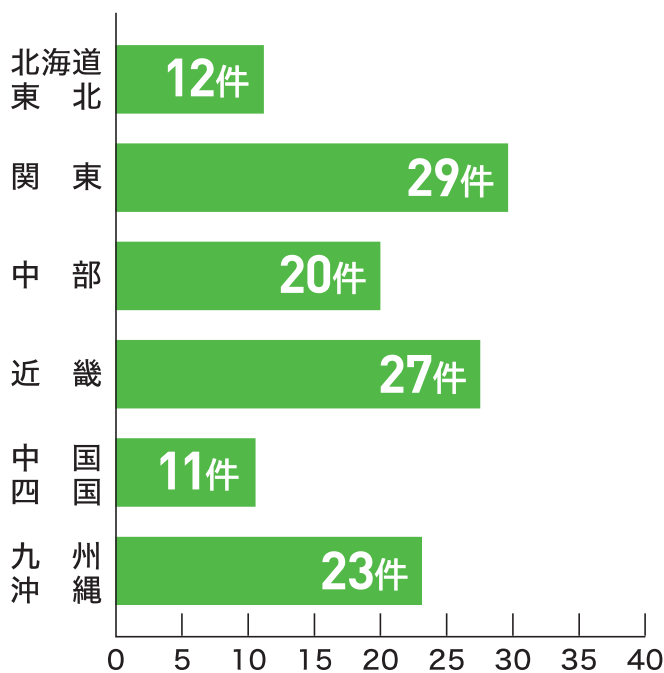
■支援件数 計122件

様々な学びを支援する事業	26件
居場所の提供・相談支援を行う事業	39件
衣食住など生活の支援を行う事業	34件
児童又はその保護者の就労を支援する事業	1件
児童養護施設等の退所者等や里親・特別養子縁組に関する支援事業	1件
新たな社会課題や支援ニーズに対応した事業	8件
その他、貧困の連鎖の解消につながる事業や、こどもの貧困の背景に存在する様々な社会的要因の解消にも資する事業	13件

■支援先団体の法人区分別内訳



■支援先団体の所在地域別内訳



※内訳件数等：令和7年10月時点

令和6年度活動の成果

令和6年度の活動において、**32,222名**の子ども・親子に支援を届けました。

5,976名

様々な学びの支援

7,463名

居場所の提供
相談支援

16,940名

衣食住など
生活支援

17名

児童、保護者の
就労支援

59名

児童養護施設等の
退所者等の支援

1,767名

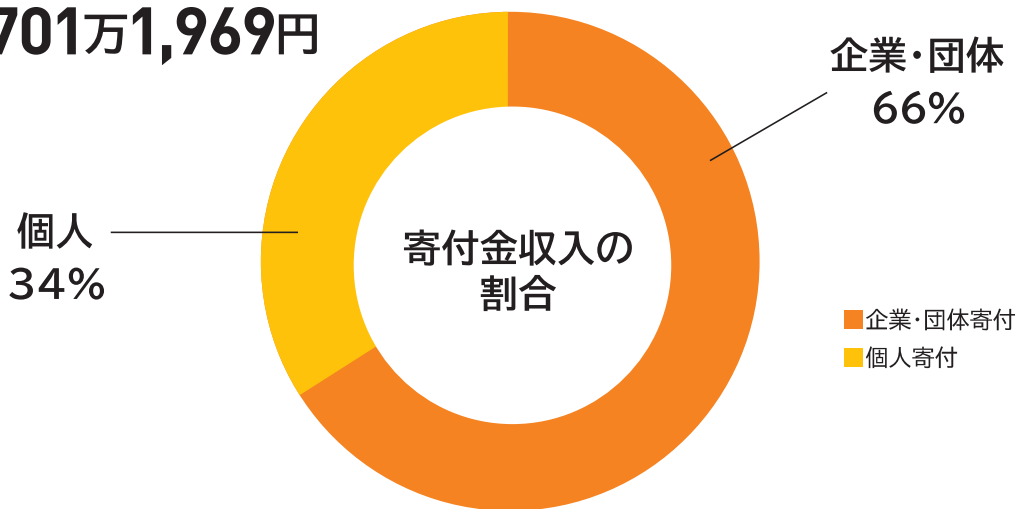
新たな社会課題や
ニーズへの支援

※助成団体からの報告を単純集計したもの。

基金の財務状況

■寄付金収入 令和6年度末時点(累計)

24億8,701万1,969円



■寄付金支出 令和6年度末時点(累計)

17億8,259万3,000円

※寄付金は、クレジットカード決済手数料を除き、全額が支援に充てられます。

支援実績

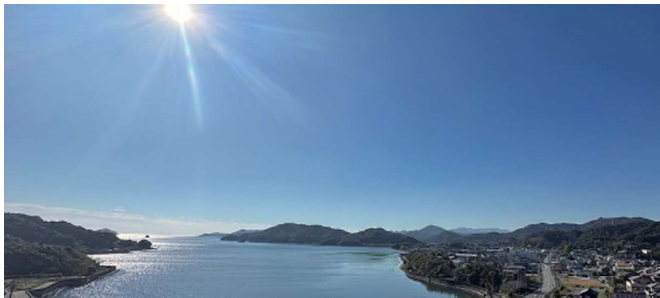
事業年度	活動期間	支援実績(支援決定額)	
平成28・29年度 未来応援ネットワーク事業	平成28年10月 ～平成29年9月	86団体	約3億1,600万円
平成30年度 未来応援ネットワーク事業	平成30年4月 ～平成31年3月	79団体	約2億6,600万円
平成31年度(令和元年度) 未来応援ネットワーク事業	平成31年4月 ～令和2年3月	71団体	約2億 800万円
令和2年度 未来応援ネットワーク事業	令和2年4月 ～令和3年3月	97団体	約1億3,300万円
令和2年度 新型コロナウイルス感染拡大への 対応に伴う緊急支援	令和2年7月 ～令和3年3月	20団体	約5,300万円
令和3年度 未来応援ネットワーク事業	令和3年4月 ～令和4年3月	96団体	約1億4,600万円
令和4年度 未来応援ネットワーク事業	令和4年4月 ～令和5年3月	133団体	約2億 200万円
令和5年度 未来応援ネットワーク事業	令和5年4月 ～令和6年3月	146団体	約2億3,000万円
令和6年度 未来応援ネットワーク事業	令和6年4月 ～令和7年3月	122団体	約2億2,700万円

1 様々な学びを支援する事業

NPO法人 学び場子ども食堂（三重県）

教育で恩返し 元校長がつくった放課後の学びの場

紀伊半島の東部に位置する三重県南伊勢町は、漁業と温州みかんをはじめとする柑橘類の栽培が盛んな「伊勢の南玄関」として知られています。そんな自然豊かな地域で、NPO法人「学び場子ども食堂」は、支援が必要な子どもたちに向けた放課後の無料学習サポートを実施しています。



NPO法人学び場子ども食堂の活動拠点、南伊勢町は熊野灘に面し、漁業と農業がさかんな地域（写真は南伊勢町提供）

出席率9割近く 遊びも学びのモチベーションに

「先生、今日、学校で発表できたよ」。学習サポートの会場から、子どもたちの明るい声が聞こえます。学習サポートは毎週金曜日の夕方5時から2時間に実施。利用登録している子どもたちの出席率は、毎回9割近くに上ります。体調を崩した場合を除いて、ほぼ出席している計算です。学校の宿題などその日の課題が終わると、子どもたちは人気のボードゲームで一緒に遊びます。

「早く遊びたくて、集中して課題に取り組む子どももいる」と話すのは、NPO法人「学び場子ども食堂」理事長の大下武彦さん。同じゲームをみんなで楽しむ時間は、「学ぶ仲間と一緒にいられる」という環境づくりでもあり、子どもたちの勉強のモチベーションを高めているようです。



学習サポートに参加した子どもたちは、その日の課題を終えると一緒にゲームで遊ぶ（写真はNPO法人学び場子ども食堂提供）

学習サポートのスタッフ 全員が元校長

学習サポートは、大下さんの「教員経験を生かして、子どもたちの役に立ちたい」との思いから始まりました。南伊勢町の小学校の校長を最後に令和3年（2021年）3月に教員を定年退職。同年11月にNPO法人学び場子ども食堂を設立し、翌月から放課後の学習サポートを始めました。学習サポートを担当するスタッフは4人（令和8年2月現在）で、全員が教員OBで校長経験者であることが特徴です。町内の小中学生10人（令和8年2月現在）が利用しており、スタッフがほぼマンツーマンで寄り添って、学校の授業でわからなかった箇所や宿題をフォローしています。長年教壇に立ち、三重県教育委員会への出向経験を持つ大下さんは、家庭の事情などで学習環境が十分に整っていない子どもたちを放課後に支援する必要性を感じていました。このため、学習サポートは、南伊勢町のひとり親家庭、就学援助・生活保護を受けている家庭の小中学生に限定しています。町の子育て・福祉課と町内の小中学校と連携し、対象家庭にチラシを配布するなどして参加者を募っているそうです。



NPO法人「学び場子ども食堂」の学習サポートは、一人一人の学習ニーズに合わせた授業を実施している（写真はNPO法人学び場子ども食堂提供）

学習サポートの開始から5年目を迎え、大下さんは「学習習慣が少しずつ身についてきている」と活動の手ごたえを実感しています。子どもたちからの「友達と一緒に勉強できるので楽しい」「学校の授業がわかるようになった」といった声が原動力です。「子どもが自宅で勉強するようになった」など保護者から感謝のメッセージも届いています。また、保護者からの教育相談にも応じています。小学校低学年から利用し、希望する高校に合格したケースもあるとのこと。大下さんは「ここに来れば学校に行く時、宿題をしていないという状況が、週1回はクリアできる。学校の宿題もきちっと出せるし、勉強について自信もつく」と意義を語ります。

こども食堂とフードパントリーで食事も支える

NPO法人学び場子ども食堂は、学習サポートの開催日に合わせて、学習サポートの利用家庭を対象に、無料のこども食堂とフードパントリーを実施しています。こども食堂では、学習サポートの授業後に各家庭の人数分のお弁当を持ち帰ってもらっています。保護者に食事の準備などの家事を気にせず、子どもと一緒に食事の時間を楽しんでほしいとの考えからです。調理は地域の業者に委託しています。

フードパントリーでは、お米や野菜、果物、レトルト食品や飲料などを配布しています。漁業と農業が盛んな南伊勢町では、地元の農家から白菜や柑橘類の「せとか」といった地元産の旬の作物が届くことも多いです。地域の事業者からは文房具をはじめ、子どもたちが使用する物品の提供を受けるなど、地域全体で活動を応援する動きが広がっています。



フードパントリーで配布している食品の中には地元ならではの産品も（写真は学び場子ども食堂提供）

NPO法人学び場子ども食堂は、令和5年度と令和6年度に「こどもの未来応援基金」を活用し、学習教材や弁当の購入費用などに充てています。活動の領域も拡大しており、令和7年度からは学習サポートのスタッフが南伊勢町内の学童クラブで出前授業を始めました。大下さんは「子どもたちが目標や夢に向かって進みたいと思えることが大事。一定の学力を保障することで、自立を助ける。自分も教育によって人生を切り開くことができた」と活動への思いを語ったうえで、「地域と連携を強め、これまでに培った学習サポートのノウハウを三重県内の他地域へも広げたい」と今後の展望をお話いただきました。

（令和8年1月取材）

2 居場所の提供・相談支援を行う事業

一般社団法人 うみのこてらす（徳島県）

小さな町で切れ目ない支援活動へ 持続可能モデルを徳島から

活動の拠点とする徳島県牟岐町の人口は約3300人（令和8年（2026年）1月）。この小さな町にも“支え”を求めるこどもたちはたくさんいます。「居場所」となるフリースペースを作るところからはじめ、小学生から高校生までを見据えた“寄り添う支援”により、一人ひとりに光を灯そうとしています。



団体が作った「居場所」は、「つながり、学び、いろいろな経験をする場」になっている（うみのこてらす提供）

地元で中高生の居場所づくり 不登校のこども向けの活動も

活動の原点は、代表の川邊笑さんが大学時代に参加したボランティア活動で出会ったこどもたちでした。特に、家庭の事情もあり不登校だった小学5年生の男の子が言った、「やりたいこともない。生きている意味あるんですかね」の言葉は衝撃だったといいます。しかし、その子は一緒に過ごすうちに力を取り戻していきました。「心配したり応援してくれたりする人、信頼できる人との出会いは大切。家庭と学校以外に安心できる場所があることの意義を強く感じました」と川邊さんは振り返ります。そのころ、徳島の

友人から、「昔は私もしんどかった」と聞き、不登校の友達がいたことを知ったこともきっかけになり、地元で活動をスタートさせました。



「小学校から高校まで切れ目なく、安心して社会参画できる体制を作りたい」と話す川邊代表

高校時代の同級生と2人で準備を始め、令和3年3月、中高生を中心に誰でも気軽に立ち寄れる居場所「ゆあぶれ」を牟岐町にオープンしました。当時は、大学が休みになる時だけの活動でしたが、就活を目前にした4年生になる時が転機になりました。就職すれば活動はあきらめざるをえないし、長期休みの時だけの活動では“居場所”にはなっていない。そんな思いもあり、1年間、大学を休学。まず、「ゆあぶれ」を毎週日曜の常設にしました。しかし、「だれでもどうぞ」の場所には、学校に行けなくてしんどい子は来られません。そこで、平日、不登校のこどもたちを対象にした「われもこう」を開設しました。ここに来る小中学生は、15校すべてで出席扱いになりますが、川邊代表が、地元の学校とパイプのある元校長に協力してもらって1校ずつ回り、報告を上げることを条件に認めてもらいました。

拠点へ来られない子に 家庭訪問事業で つながり

活動を続けることを決めて令和5年に法人を設立。地域のコミュニケーションの場として、「てらす食堂」を開設。拠点に来られない子どもたちのために、家に出向いて学習支援や心のケアを行う訪問事業も本格的に取り組み始めました。令和6年度からは「こどもの未来応援基金」を活用して活動を拡大。有償メンバーを増やして安定した運営体制を整え、廃校となった小学校を拠点に「われもこう」を週2回にしたほか、学校や行政との定例会を設けて緊密に情報交換を行っています。月1回、必要な食材を届けて、子どもたちや保護者とのつながりを築く「てらすbox」事業は、牟岐町を含む海部郡の約20の家庭を回っていますが、令和8年には県域に広げたいといっています。



スタッフは、定例会で情報交換を行ったり活動記録を蓄積したりしながら、支援の質を高める体制を取っている（うみのこてらす提供）

徳島市にフリーカフェ開設 大学生をボランティアに

令和6年8月には、徳島市内に中高生のためのフリーカフェ「ゆうてらす」を開設。目的の1つはボランティアの大学生を集めることでした。子どもたちにとって、年齢が近い“斜め上”の存在である大学生との出会いは視野を大きく広げるといいます。進路や親との関係など、相談に乗ることもある。学生はイ

ベントを開いたり、勉強を教えたりしますが、進路や親との関係など、相談に乗ることもあります。



活動への理解・支援を届けようと、SNSでの発信や寄付者を招いての現地ツアーなども企画している（うみのこてらす提供）

都市部の拠点とオンラインによる支援で、広く・長く

徳島に拠点を置くもう1つの目的は、団体の活動を存続させることです。人口減が続く地域での活動は、子どもがいなくなると必要なくなって、団体も閉じざるを得なくなります。ですが、都市部に拠点を構えておけば、支援対象の子どもたちが減っても対応できます。また、令和7年6月にはオンラインで学習支援を行う取り組みも始めました。これにより、拠点まで遠くて通えない子にも対応できるようになり、引きこもりや不登校の子どもたちが出て来られるようになった時、対面の拠点につなげやすくなったといっています。川邊代表は、県内各地に拠点を置き、その中間点や離れた場所はオンラインでカバーする「徳島モデル」を作り、将来は、支援体制が整っていない全国の過疎地にも広げたいと考えています。「安心感のある場所でいろんな人と出会い、悩みながらも自分なりの一歩を踏み出す。その経験が自分の未来を作る力になります」。川邊代表はそう話し、生まれた環境によって諦めることのない社会を目指して活動を続けています。

（令和8年1月取材）

2 居場所の提供・相談支援を行う事業

くっちゃん子ども子育て応援し隊 Popke Lab (北海道)

地域で子育てサポート こどもたちが「住み続けたい」と思う町に

北海道虻田郡の倶知安(くっちゃん)町は、国際的なリゾート地となった「ニセコエリア」に位置し、国内外から多くの観光客が訪れます。ここで、こどもたちの居場所づくりや親子で参加できるイベントの開催を展開しているのが、ボランティア団体「くっちゃん子ども子育て応援し隊 Popke Lab(以下、ポッケラボ)」です。



雪像作りのイベントなどを季節ごとに企画し、こどもたちにさまざまな体験の機会をつくっている(ポッケラボ提供)

子育て奮闘中のお母さんたちによる立ち上げ

ポッケラボは令和元年(2019年)10月、子育て奮闘中のお母さんたちがつくりました。代表理事の松井雅子さんは福岡市出身で、自然の美しさに魅力を感じて20年前、ニセコエリアに移住してホテルで働きました。結婚し3人のこどもに恵まれたものの、夫婦ともに実家が遠く、地縁のない場所での子育ての厳しさを味わったといいます。子育ての悩みを聞いてもらったり、自身の体調不良時にこどもを預けたりするなど、身近に頼れる人がいなかったためです。それと共に、倶知安町には、ホテルのほか陸上自衛隊の駐屯地などがあって移住者や転勤族が多く暮らし、同じ体験を共有する親が多いことが分かりま

した。松井さんは「子育てをする上で実家の支援を受けづらい人が少なくなく、地域で子育てをサポートする組織の必要性を感じた」と振り返ります。

「助かりました」の声が活動のモチベーション

設立翌年の令和2年、中古のこども用の服や玩具や本、日用品を販売する「おさがり掘り出し市」を企画。こども服は短期間で買い替えが必要となり、おさがりが活躍します。倶知安町は、北海道有数の豪雪地帯かつウィンタースポーツが盛んなこともあり、ジャンパーや手袋、帽子のニーズが高いといい、今でも春、秋の年2回開催を続けています。松井さんは、「『助かりました』と声をかけてもらうことが、私たちの活動のモチベーションになっています」と話します。こどもたちに様々な体験を楽しんでもらおうと、雪像づくりをなど季節ごとにさまざまなイベントも実施しています。保護者向けには育児講座を開催し、子育ての不安や悩みに寄り添うことで、こどもの年齢が近い保護者同士のコミュニティを作っています。



「みなさんが楽しみにしているイベントを続けていきたい」と松井さん(写真左端。ポッケラボ提供)

「こどもの居場所」で地域がつながる

ポケラボは令和6年4月、こどもたちの居場所づくりを目的にした「地域でこどものココロとカラダ支援『ココカラ』」を新たにスタートしました。会場は倶知安町内の公共施設で、令和8年2月時点の活動としては、和室やキッチン、2階の一室をこどもたちに開放し、週1回のペースで軽食を提供しているほか、月に1回以上、夕食を提供する日を設けています。



みんなで作ったカレーを食べるこどもたち（ポケラボ提供）

20代から50代のスタッフが常時5人体制で運営し、小中学生・幼児連れの親子など約80人が参加しています。こどもたちが好きなことをして過ごすだけでなく、訪れた地域のお年寄りや大人と接する場ともなっているとのこと。こどもたちの好奇心を満たし、地域交流を促すための講座も開催しており、例えば、ヨガや染め物があります。松井さんは「地域の大人がいろんなこどもと関わったり、高校生と幼児など学校や学区を超えた異年齢交流で自然と社会を互いに学び合っています」と手ごたえを感じています。今や子育ての難しさ克服という設立の目標を超えた、地域一丸となった取り組みに成長しました。



フードパントリーで配布している食品の中には地元ならではの商品も（写真は学び場子ども食堂提供）

設立に向けては、令和6年度の「こどもの未来応援基金」を活用。事業を進めるため、会場の利用費やスタッフの person 費、食材の購入費に充てることにしました。令和7年度も同様の支援金を受けたことで、スタッフの person 費を賄うことができているそうです。こうした支えもあり、活動は開始から7年目を迎えています。松井さんは「メンバー自身が楽しんでいないと活動は続きません。こどもたちと一緒にやってみたいことをメンバーが提案して一つずつ形にしてきました」と振り返ります。いずれは任意団体から法人化することを検討しており、「次世代に活動を引き継いでいける体制にします。こどもたちが大人になるころには、もっと倶知安町の子育ての環境をよくしたい。こどもたちが住み続けたいと思える町になれば」と次の目標を見据えています。

（令和8年1月取材）

3 衣食住など生活の支援を行う事業

NPO法人 やまがた絆の架け橋ネットワーク（山形県）

子どもたちの「食」と「学び」 地域の絆で支える

さくらんぼをはじめフルーツ栽培が盛んな山形県寒河江市は、JRの山形駅から約30分に位置します。ここで地域の子どもたちをサポートしているのが、NPO法人「やまがた絆の架け橋ネットワーク」。市内で無料の子ども食堂「さくらんぼ食堂」や学習塾を開いており、地域からの信頼を得ています。



NPO法人やまがた絆の架け橋ネットワークが運営するさくらんぼ食堂。子どもと保護者が一緒に食事ができる

子ども食堂で家族団らんの時間をつくる

「みんなの前で『いただきます』を言ってくれる人はいるかな」

法人で代表理事を務める早坂信一さんがこう呼びかけると、「はい」と子どもたちの元気な声が響き渡りました。さくらんぼ食堂のこの日のメニューは、ハンバーグとハウレンソウのソテー、ゴボウサラダ、ごはん、お味噌汁、ミカン。さっそく「おいしい」との声があがり、しばらくすると、おかわりする列が。子どもと一緒に参加した寒河江市内の女性は「家事を気にせず、家族そろって食事ができるのでありがたいです。物価も上がっているのでとても助かっています」と笑顔を見せていました。

やまがた絆の架け橋ネットワークは、東日本大震災で福島県から山形県内に避難した被災者の帰省の足としてバスを運行したボランティア組織が前身です。その後、メンバーや活動内容が変わり平成28年（2016年）、東日本大震災の避難者の支援を目的にNPO法人化しました。現在は支援を必要とする地域の子どもや保護者に向けた活動に力を入れています。早坂さんは「地域のみなさんと一緒に子どもたちを見守り、育てることができれば」と思いを語りました。

さくらんぼ食堂は令和元年10月にスタートし、寒河江市内の公共施設で月2回開催しています。毎回、平均で約20世帯、70人ほど（うち、子どもは7割）が参加し、調理や配膳を担当するのは地域の人々です。食材は、地域の食品会社から箱が破損するなどして商品として販売できなくなった冷凍食品を譲り受けているそうです。子ども食堂の開催は調理の多さがネックとなるケースが少なくないといい、早坂さんは「地域のつながりによってメニューが構成でき、とても助かっています」と語りました。



地域の人々がボランティアで調理を担当し、さくらんぼ食堂の運営を支えている

食堂を訪れるのは、寒河江市内のひとり親家庭と経済的な困難に直面している家庭。明確な「参加基準」はないものの、家族団らんを提供する場にしたいと考えており、保護者が子どもと同伴するよう呼びかけています。

好評の無料学習会 講師は地域の高校生

やまがた絆の架け橋ネットワークは、さくらんぼ食堂で無料の学習塾を週1回のペースで開いています。小中学生20人(令和8年2月現在)が在籍し、講師は地域の高校生です。参加した小学生の一人は「教えてもらって分数の計算ができるようになったよ」と笑顔で話してくれました。講師の高校生は「子どもたちに学習内容を理解してもらえることが、自分の成長にもつながっていると感じます。大学は教育学部に進みたいと考えています」と目を輝かせていました。



無料学習塾では、高校生が講師になり小中学生にマンツーマンで教える

やまがた絆の架け橋ネットワークは令和6年度、「こどもの未来応援基金」を活用し、さくらんぼ食堂の食材や無料学習塾の教材をそれぞれ購入しました。寒河江市内のひとり親家庭を対象にフードパントリーも年に数回実施しており、缶詰や飲料のほか、地元産の米、野菜、果物などを50世帯(令和8年2月

現在)に届けています。このうち、お米は地元農家から仕入れた令和7年産を各世帯に15kgずつ配り、子どもが4人以上いる家庭には量を追加したそうです。



「地域のみなさんと一緒に子どもたちを見守り、育てることができれば」と活動への思いを語る早坂さん

新たな活動として、令和8年度からは「フードバンク さくらんぼ」を本格稼働。これまで県内には、子どもへの食材支援で活動する団体を取りまとめる組織がなかったといいます。このため、企業などから箱単位で譲り受けた食材を他団体と分かち合いたいと考えました。早坂さんは「フードバンクとして企業と県内の他団体を結ぶ役割を果たし、食材を必要とする家庭の子どもたちに届ける仕組みをつくっていききたいですね」と、将来を見据えていました。

(令和8年1月取材)

3 衣食住など生活の支援を行う事業

認定NPO法人 LivEQuality HUB (愛知県)

シングルマザー世帯に、住居の提供と自立の支援を

愛知県名古屋市にある「認定NPO法 LivEQuality HUB(リブクオリティ ハブ)」は、令和4年(2022年)1月末に設立され、令和5年12月末に認定NPO法人格を取得。さまざまな事情によって住まい探しに困難を持つ女性、特にシングルマザーに対して、生活の拠点となる住まいを提供するとともに、自立に向けてきめ細かい支援を行っている団体です。



居住者や新規の相談はLINEなどで24時間受ける体制にし、平日の営業時間に対応。事務所には子どもたちが遊びに来ることもあるとのこと

ハードルの高い住まい確保

子どもを抱えた女性にとって、DV被害による緊急避難や失業による家賃滞納などにより住まいを失ったときには、速やかに次の住まいを確保するとともに収入を得なければなりません。それには数々のハードルがあります。住まいがないと、保育園などに子どもを預けるための行政手続きができず、子どもを預けられなければ仕事を見つけることは困難となり、収入を得られません。実際、職歴や収入がないために初期費用が払えなかったり保証人が見つからなかったりするケースや、子どもを抱えながらでは役所での手続きをすることが難しいケー

スがあります。「LivEQuality HUB」では、居住支援コーディネーターの職員2名とアシスタント業務を行う職員、数名の大学生インターンが主力となり活動しています。現在(令和7年取材時)は27世帯、66名の入居者に対して、定期的な家庭訪問や同行支援、こどもの見守りなどの支援を行いながら、令和7年度中に500世帯の見込みとなる新規の問い合わせや相談に対応しています。活動に当たっては、「こどもの未来応援基金」の支援金を人件費や支援業務の際の交通費に活用するなど、助成金や寄付金などで運営されています。

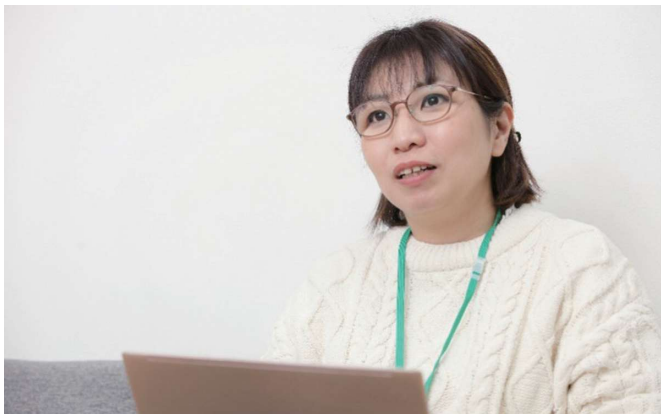


支援者から生活用品をはじめとした寄付が寄せられます。入学式や卒業式に必要なスーツなども貸し出します

住まいの確保だけにとどまらない支援

実務を担当する居住支援コーディネーターの神朋代さんによると、「条件に合う物件に入居できたとしても、それで終わりではないんです。入居後にも、仕事探しや役所関連の申請、保育園選びなどやらなければいけないことが多い。そうした問題に実際に付き添ってフォローしたり、留守番をすることもたちの見守りをしたりしています。これまでとは違う

環境でも、親も子も安心して生活し、地域とのつながりを構築できるように寄り添う伴走型のサポートを行っています」とのこと。



「小さい子を抱えていると、役所の窓口に行くだけでも大変。一人でごんばるお母さんに寄り添うことを心がけています」と神さん

なおこの支援事業は、「認定NPO法人 LivEQuality HUB」と、代表の岡本拓也さんが経営する「株式会社 LivEQuality 大家さん」との密接な連携で実現されています。

「LivEQuality HUB」が利用者の要望を聞き取り、「LivEQuality 大家さん」がシングルマザーの要望に沿える物件を確保、管理する分業体制を取り、スムーズな住居探しを可能にしています。

また、行政や社会福祉法人等多くの機関や団体をはじめ、町内会や民生委員など地域の人々、弁護士やカウンセラーとも連携し、さまざまなケースにも柔軟に対応できるようにしています。

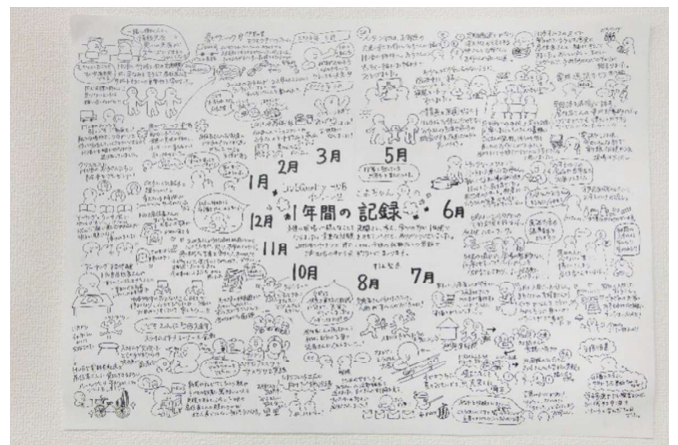


小さい子どもと一緒に相談できるように安全を考慮し、打ち合わせスペースは高さの低い家具がそろいます

ニーズに対応するため活動範囲を広げたい

相談者からは、「こどもにひどい言葉をかける元夫への対応に落ち込んでいたとき、神さんとお話できる約束があったのでがんばれました」「家族でもない人がこどもの成長を一緒に喜んでくれるのがうれしい」との声が寄せられていると神さん。

今後の目標について聞くと、「私たちへの相談は日本全国のほか、海外から日本に帰国する人からもきます。ただ、現在はまだ基本的に名古屋市での活動のため、そのすべてに対応することが難しいです。名古屋市での我々の活動をロールモデルとして確立させることで、支援できる範囲をほかの地域にも広げていきたいです」と語ってくれました。



コミュニティづくりのため、年間を通して相談者同士の交流イベントを積極的に開催

(令和7年2月取材)

4 児童又はその保護者の就労を支援する事業

一般社団法人 こもれび（大阪府）

不登校・困窮家庭の中高生に届けた「働く体験」の3年間

ビルやマンションが立ち並ぶ大阪市西区。その一角に拠点を構える一般社団法人「こもれび」の活動の礎となったのは、平成22年（2010年）に区内で起きた幼いきょうだいの児童虐待餓死事件でした。「こんな悲劇を二度と繰り返してはならない」。その強い思いから、子育ての孤立を防ぐ取り組みが始まりました。



「お仕事体験」の一貫として、自動車ディーラーで作業をする様子（こもれび提供）

中高生に社会との接点を「お仕事体験」事業

法人化したのは平成25年です。相談支援やフリースクール、放課後等デイサービス、こども食堂など、地域の声に耳を傾けながら事業を拡大していきました。活動を重ねる中で見えてきたのが、中高生世代に広がる社会との接点の薄さ、体験の格差だといいます。都会にはさまざまな仕事があります。しかし、高いビルの中で大人たちがどんな仕事をしているのか、こどもたちにはなかなか見えません。経済的な理由で習い事や体験活動に参加できないこども、不登校のために家族以外の大人と話す機会がほとんどないこどももいます。それでも、学校を卒業すれば、否応なく「社会」に出なければなりません。「その

前に、働くとはどういうことかを少しでも知る機会をつくれないう」という思いから始まったのが「お仕事体験」事業でした。

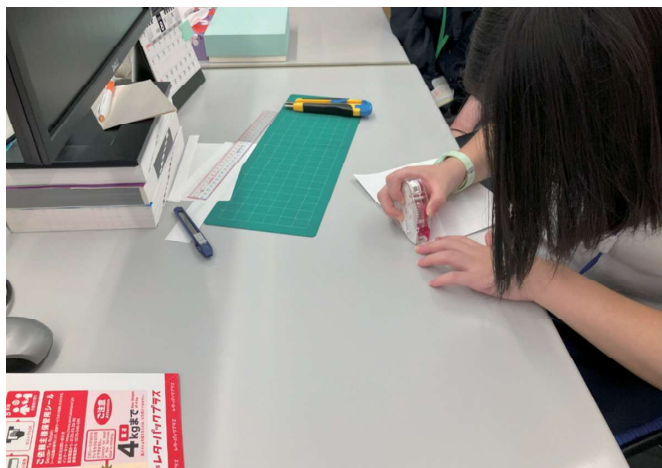
専門職が伴走する「はじめの一步」

主な対象は、不登校や生活困窮といった事情から身近にロールモデルとなる大人がいない中高生です。まずは、キャリア支援の専門家による講座からスタート。世の中の職業を知り、自分の興味、強みを探ります。そして、働く上でのマナーやコミュニケーションから、実習後のお礼状の書き方、お金の管理まで段階的に身に付けていきます。令和4年（2022年）度から3年間にわたり「こどもの未来応援基金」に採択され、キャリアコンサルタントや社会福祉士、スクールソーシャルワーカーにそれぞれかかる人件費、講座運営費、実習受け入れ先への謝金を中心に基金を活用しました。専門職の伴走体制を整えたことが、こどもたちの挑戦を支える大きな土台となってきました。「お仕事体験」の実習先は、営業事務、カフェ、保育園、レストラン、自動車ディーラーをはじめ多岐にわたります。社会福祉士の佐藤あおいさんが、こどもの希望に応じて新たな受け入れ先を開拓してきました。



こどもたちの体験機会の重要性を語る佐藤さん

自動車ディーラーでは、機械好きの生徒たちが整備士の仕事を体験しました。つなぎのユニフォームに袖を通し、ボンネットを開けた瞬間、目が輝いたといます。洗車や点検作業、見積書の作成を経験し、「働く姿」が具体的な将来像へと変わっていきました。インターネットセキュリティー会社での封入作業も印象的だったそうです。「企業に届く大切な書類である」との説明を受けると、こどもたちのまなざしと手つきは一変して真剣に。日常の作業が「社会を支える仕事」という意味を帯びた瞬間でした。



体験先での封入業務（こもれび提供）

受け入れ企業からは、「教えることで自分のやりがいを確認できた」「こどもたちのリアルな実情を知ることができた」との声が届いています。こどもと地域の大人が出会うことで、双方に変化が生まれました。

身近な成功体験が未来を動かす

令和5年度から2年間は、こどもたちが主体となる「こもれびカフェ」も実施し、メニュー考案から装飾、接客までを担いました。オープン当日は想定を超える来場者で、こどもたちは即席で番号札を作り、役割分担を見直し、声を掛け合って乗り切ったとのことです。

2年目は、かつて参加した生徒がリーダーとして後輩を支える姿も見られました。参加者のアンケートからは、「自分たちでやり遂げた」という実感が大きな自信へとつながっている様子が見えます。プログラム修了後に、アルバイトや就職につながったこどもがいたほか、学校に再び通い始めた例もありました。



こもれびカフェでドリンクをつくる参加者（こもれび提供）

講座や実習のたびに、スタッフはこどもの「良いところ」を見つけ、手書きのカードにして渡してきました。積み重なる言葉は、自分を肯定する材料となります。「今は外に出られなくても、いつか『やってみよう』と思える日が来る。その時に地域で支えられる仕組みをつくりたいですね」と、佐藤さんは語ります。働く体験とは、単なる職業学習ではありません。「自分にもできる」という感覚を取り戻す時間であり、こうした成功体験の積み重ねが、こどもたちの未来を確実に動かしています。「こもれび」の挑戦は、地域全体でこどもを見守る社会へとつながっているのです。

（令和8年2月取材）

5 児童養護施設等の退所者等や 里親・特別養子縁組に関する支援事業

一般社団法人 福祉とデザイン（福岡県）

こどもが大人と一緒に理解する 里親制度のカードキット

様々な事情で家族と離れて暮らすこどもを迎え入れる里親制度は、委託率が増加傾向にあるものの、里親と里子の関係が悪化するケースもあります。「福祉とデザイン」（本社：福岡県福岡市）は、良好な関係作りに役立てばと、会話を通じて里親制度やこどもの権利などを学ぶフォスタリング（里親養育包括支援）カードキット「TOKETA（とけた）」を開発しました。令和6年（2024年）度には、カードを利用する里親や支援者らへの調査結果を反映した「改良版」を発表。全国の活用事例をオウンドメディアで発信する取り組みも進めています。



こどもが大人に聞きたいことを書いたしつもんカード（福祉とデザイン提供）

信頼関係を築き 疑問も解消

TOKETA開発のきっかけは、「福祉とデザイン」の田北雅裕理事（九州大学准教授）が、公益財団法人日本財団から「里親制度について、こどもにもわかりやすく説明できる冊子をデザインしてほしい」と依頼されたことでした。平成28年（2016年）の児童福祉法改正では、虐待などで保護されたこどもは「里親委託」が優先されると明記されました。制度の普及や理解を促す大人向けの冊子は数多く発行されたものの、こども向けはほとんどありませんで

した。このため、こどもが制度を十分に理解できないまま、里親家庭に託されるケースが少なくなかったといいます。何とか解決したいとの思いから、田北さんは、大阪のデザイン事務所・UMA/design farmと協働して、こどもと大人が一緒に楽しみながら制度を理解するカードキットを提案しました。



3種類のカードが1セットになったTOKETA

TOKETAは、「こんにちはカード」「しつもんカード」「おうえんカード」の3種類で構成。「こんにちはカード」は、例えば「好きな」「時間」というように、カードを組み合わせたお題に沿って対話を進め、こどもと支援者を打ち解けた関係にする役割を持ちます。「しつもんカード」は、「なぜ里親家庭で生活するのは？」などの普段は聞きづらい質問を伝え、話し合うことを促します。そして、「おうえんカード」は、「わたし」を中心に「里親」「ケースワーカー」らのカードをマップに貼り付けることで、周囲にいる応援者の存在に気付く仕組みとなっています。カードキットの名称は、「関係が打ち解けた」「疑問や不安がとけた」との思いを込めました。里親家庭内や、一時保護所の入退所時の面談といった場面で、こどもが安心して声を発せられるようにする効果が期待されます。



里親や支援者ら向けにTOKETAの使い方について解説する田北さん（奥、福祉とデザイン提供）

利用者の声聞き 改良につなげる

全国の児童相談所やフォスティング（里親養育包括支援）機関、里親向けに、令和4年から提供を開始し、全国各地の研修会、ワークショップでカードの活用方法を紹介しました。さらなる改良を図るために「こどもの未来応援基金」を活用し、令和6年9月から令和7年1月にかけて、TOKETAを活用している人を対象にしたインタビュー、アンケートを実施。こどもの声を聞く際の課題点などを洗い出しました。調査結果を基に、しつもんカードの表現を改めたバージョンを令和7年3月に提供を開始し、「分かりやすく、使いやすくなった」との好評を得ているそうです。調査と改良に携わった福祉とデザインの新開咲紀さんは、「大人の目線では、こどもが違和感を抱く表現は気づきにくい部分がありました。調査によって、利用者の意見を反映した、より良いものにできたと思っています」と手応えを話します。



TOKETAを活用しているアドポケットの方々に使い方について聞き取りを行う様子（福祉とデザイン提供）

社会的養育の考え 社会へ伝える

また、調査を通じて、「TOKETAの活用ノウハウを発信してほしい」という声が寄せられたことを受け、インターネット上の投稿サイト「note」で活用事例を公開。一連の取り組みが評価され、改良版のTOKETAは令和7年度のグッドデザイン賞を受賞しました。現在は子を里親に委託する実親向けに制度の理解を促したり、ショートステイというかたちで頻繁に里親家庭に預けられるこどもの精神的なケアに役立てたりするツールの開発も進めています。田北さんは「これからは、社会的養護のこどもはもちろんですが、全てのこどもを支えていく『社会的養育』の考え方が重要になってきます。こうしたコンセプトを世の中に伝え、困る人がいない社会の実現に向けて、取り組んでいきたいですね」と語りました。



一般社団法人福祉とデザインの（左から）田北雅裕さん、新開咲紀さん、理事長の酒井咲帆さん（同法人提供）

（令和8年1月取材）

6 新たな社会課題や支援ニーズに対応した事業（若年妊婦支援、ヤングケアラー支援、若者支援など）

あじさいの集い富士見（東京都）

こども食堂、フードパントリー、学習支援 地域に応じた多角的な支援活動を展開

「任意団体あじさいの集い富士見」は、東京都板橋区の南東部に位置する富士見町を拠点に、月2回のこども食堂、月1回のフードパントリー、週1回の食事付き学習支援といった継続的な困窮家庭のための活動のほか、月2回の高齢者健康教室や地域の家庭訪問などの活動を行っています。



こども食堂「にっこりキッチン！」の入口

地域の実情を踏まえ こども食堂から支援を展開

代表の小池妙子さんは、大妻女子大学や弘前医療福祉大学で教授として教壇に立っていた経歴の持ち主。

元々「この地域には昔から家賃の安い都営住宅や母子寮などが多いためか、経済的に厳しい状況にある家庭がほかの地域よりも多い」と考えていたところ、80歳で退職したことを機に、それまでの医療福祉の経験と得意な料理のスキルを生かして地域のために働きたいと考え、令和元年（2019年）に自宅を改装して、「あじさいの集い富士見」を立ち上げました。



「あじさいの集い富士見」の代表・小池妙子さん

活動は、こども食堂「にっこりキッチン！」から開始。こども食堂では、小学生以下は100円、中学生は300円で栄養バランスのとれた夕食を提供。ひとり親家庭や生活困窮家庭、家庭環境が不安定なこどもたちを中心に約60人が利用しています。

行政からの助成金のほか、しだいに地域住民からの食材の寄付やボランティア活動などの支援が集まるようになりました。そして令和4年からは食料品や日用品を希望者に配るフードパントリーをスタートしました。

「フードパントリーでは、利用者にただ食料品を手渡すだけではなく、積極的にコミュニケーションを取るようにしています。そうすることで、それまで気づけなかった問題点などが見えてくるのです」と小池さん。

令和5年からは、家庭の事情のために塾に通えないこどものため、食事付き学習支援をはじめなど活動の幅を広げています。現在では、食品を家庭に届けながら地域のこどもを見守る活動や、多世代交流を目的とした縁日やクリスマス会などのイベント、高齢者のための健康教室にも取り組んでいます。



学習支援が行われるスペース。食堂とは別の部屋のため、落ち着いた環境で勉強ができる

こうした活動を支えるため、令和4年からこどもの未来応援基金が活用されています。基金はこども食堂やフードパントリーの食材費・消耗品費を中心に充てられ、残りは活動スペースの設備や備品の費用、講師への謝礼、ボランティアの交通費などに使われています。



小池さんのほか15人ほどのボランティアが運営に携わっています

支援の中でヤングケアラー問題を認識

その中で、親が病気で家事が十分にできないため、こどもがフードパントリーを訪れるケースが見つかり、地域に潜むヤングケアラー問題にも注目するようになりました。しかしながら、ヤングケアラー問題は、当事者自身がその問題に気づかなかつたり、気づいていても自ら声を上げにくくつたりすることがあります。そこで、令和6年度の「こどもの未来応援基金」を活用して、ヤングケアラー問題への認知と理解を広めるため、講演会を開催し、さらに区内の中学校へ「あじさいの集い富士見」のスタッフによる寸劇上演の実施を始めました。

「ヤングケアラー問題を知ること、自分がそうかもしれない、あるいは友だちが困っているかもしれないと気づいてほしい。そして、友だち同士で相談し支え合えるようになってほしい」と小池さんは語ります。

こどもたちが安心して成長できる居場所

「あじさいの集い富士見」に通い始めて5年ほどになるという利用者の方からは、このような声が聞かれました。

「フードパントリーでお米などをもらえて、とても助かっています。こども食堂には親子で通っていて、3人のこどもたちがいつも『おいしいおいしい』と言っています」



家庭ごとの人数構成に応じてフードパントリーの食材を準備

代表の小池さんは、「おいしいと言ってもらえることが何よりのやりがい」と語り、活動への思いや今後の目標についてさらにこう話します。「ここに来るようになって、一言も話せなかった子が楽しくおしゃべりできるようになったり、じっと座っていられなかった子が落ち着いて食事を取れるようになったり——そんなこどもたちの成長を感じられることが大きな喜びです。これからも、私たちが困っているこどもたちの居場所となり、成長を見守り、支えていけたらと思います」

(令和7年2月取材)

7 その他、貧困の連鎖の解消につながる事業や、こどもの貧困の背景に存在する様々な社会的要因の解消にも資する事業

NPO法人 ハッピーサポートプリママ（長崎県）

フードパントリーとこども食堂 ニーズに寄り添い自然体で支援

長崎県大村市は、波静かな大村湾に臨む人口約9万9,000人の都市です。長崎空港や高速道路のインターチェンジ、西九州新幹線の駅が立地するなど、交通の便利さもあって移住者を引きつけています。一方で、新たな暮らしに悩む子育て家庭も少なくありません。「子育てや介護などで悩みを抱え、支援が必要な女性たちも増えています。できるかたちでサポートしていきたい」と、「ハッピーサポートプリママ（以下、プリママ）」の代表、藤川五月さんは力を込めます。

子育て応援誌から“進化”

藤川さんは隣の長崎県諫早市出身で、結婚を機に夫の出身地・大村市に転居しました。ママ仲間たちと子育てサークル「プリティママクラブ」をつくり、平成19年（2007年）から子連れに優しい店などを紹介する子育て応援誌「プリママ通信」を発行。自衛隊の基地もあり通勤族が多い大村市で、引っ越してきたばかりの子育て世帯からのニーズも高く、市役所の窓口や保育園などにも置かれていました。

コロナ禍で取材なども難しくなり、令和2年（2020年）に廃刊。ちょうどその頃、市から経済的に厳しい状況にある女性に生理用品を配布する事業への協力を求められました。関わるうち、当事者から「今一番欲しいものは食べ物です。」という切実な声を聞く事が多くなり、藤川さんやプリママ通信時代からの仲間たちで「喜ばれることをしたい」と、フードパントリーを始めるようになりました。



支援に取り組む藤川さん

このフードパントリーを継続するため、令和4年に設立したのが今のプリママです。藤川さんは結婚前に大手企業の営業職として活躍していました。持ち前の行動力と、応援誌を作っていた頃に培ったネットワークを生かし、メンバーと力を合わせて市内企業などに食材の寄付を募り、協力の輪を広げました。

配布と調理で食材を有効活用

「ありがとうございます！」

市のこどもセンター1階で月1回、日曜朝に開く「フードパントリーおおむら」の会場では、菓子を受け取ったこどもの声が響きます。お米やレトルト食品が入った袋が世帯ごとに手渡され、寄付で集まったこども服や日用品、衛生用品も並び、毎回約100人が必要な品を受け取っていきます。



お米やレトルト食品などが受け取れる「フードパントリーおおむら」

ハンドクリームづくりをはじめとする、親子で参加できるワークショップもあります。「皆で楽しめる催しも、支援を続ける力になります」と藤川さんは話します。一度フードパントリーを利用した人には、関連情報をLINEで連絡。継続的な支援につなげるほか、より困難な状況に直面している人には別途支援をするという臨時的なサポートも行っています。

令和6年10月からは、フードパントリーに続いて子どもセンター2階で「みんなの食堂おおむら」を同日開催しています。これは不登校の子どもを育てる母親たちのグループ「nomado village(ノマド・ヴィレッジ)」との共催によるもの。大人は100円、子どもは無料。寄付された食材を基に、元シェフが考案・指導してノマドのスタッフが和洋中のバランスの良いメニューを調理します。



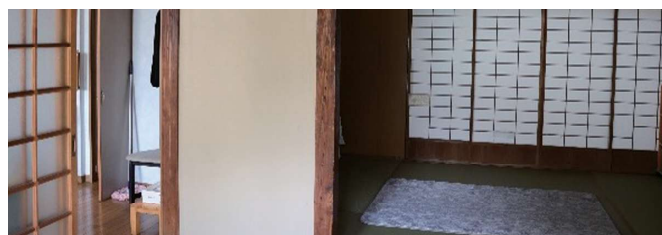
手作りの料理が味わえる子ども食堂

プリママは、フードパントリーを行うために個人のほか企業・団体からも広く食材を集めていますが、中には大袋に入った業務用食材や冷凍食品もあり、こういった食材を子ども食堂で有効活用しています。

配布と調理で食材を有効活用

プリママは、食糧支援のほかに、子育て中の女性らの「かけ込み寺」となる施設を運営しています。令和5年に開設した短期入居施設「ステップハウス」は、藤川さんが知人のつてで借りた空き家を活用。子連れでもスムーズに入居できるように日用品や子供

服を備えます。プライバシーに配慮し、一度に入居できるのは1世帯のみで、電気代として1日300円の負担で利用できます。



一時入居施設「ステップハウス」の内部

運用方針は「自分が歩みたい未来へ前向きに準備するための一時的な避難所」です。対象はDV被害者らに限らず、「家族と折り合いが悪い」「家庭内に居場所がない」といったさまざまな悩みを抱える女性を受け入れます。令和6年度は7件、翌7年度は5件の利用がありました。なお「フードパントリーおおむら」と「ステップハウス」については、令和6年度子どもの未来応援基金に採択、その助成を利用しています。フードパントリー、子ども食堂、短期入居施設と展開する中、物価高騰が事業継続の「壁」となっています。貧困世帯から食糧支援のニーズが高まる一方で、家庭や企業から寄せられる食材の数が減っているためです。支援の実績を丁寧に説明して深く賛同する協力者を募り、ネットワークの維持だけでなく、新たな支援網の開拓を目指しています。そして、「今の活動をいつかは次の世代に託したい」と願っています。



ハッピーサポートプリママのメンバー

(令和8年2月取材)

こどもたちや保護者の声

「こどもの未来応援基金」による支援を受けた団体の活動により、こどもたちやそのご家庭に様々な変化が現れています。アンケート等を通じて、支援団体によせられた声の一部をご紹介します。

◆こどもたちの声

- ・学校で発表する回数が増えました。
- ・勉強がよくわかるようになりました、何度も面接の練習してくれてありがとう。
- ・質問するとすぐに教えてくれてとてもうれしいです。ありがとう。
- ・ここで勉強するのがとても楽しいです。
- ・弁当がいつもおいしいです。特に唐揚げ弁当が好きです。
- ・セト力をたくさん食べました。とても美味しかったです。

◆保護者の声

- ・物価高騰の時に、野菜やフルーツまで支援していただきとてもうれしかったです。特にお米の支援は本当にありがたかったです。感謝です。
- ・子ども達も「先生はとても丁寧に教えてくれる」「聞けばすぐに教えてくれる」などとても喜んでいきます。
- ・家での勉強も増えました。ここのおかげだと思います。もっと回数を増やしてほしいです。
- ・子どもの進路で何度も相談に乗っていただきありがとうございました。落ち着いて子どもと接することができました。

(学習支援や、お弁当・食材配布等を行う団体)

◆保護者の声

- ・最初はできないことができるようになり、自己肯定感が向上しております。
- ・先生のご指導のおかげで楽しく体力がついてきているので、嬉しく思っています。
- ・夏は暑いので水泳教室をしてもらい大変助かります。
- ・最近川遊びできる機会がなくなり、また、水難事故も増えて川遊びさせるのに不安があり、このように安全に遊べる機会を作ってもらいありがとうございました。
- ・子供たちのいきいきとした様子をみていると大変うれしく思います。
- ・だれでも気軽に参加できる機会があり大変ありがたいです。
- ・学童だけでなく、放課後の居場所として学校と連携がとれたこのような活動はとてもありがたい。

(スポーツ活動や学習支援等を通じた居場所づくりを行う団体)

◆こどもたちの声

- ・楽しかった。将来ゲームをつくる人になりたい。
- ・将来パソコンを使って何かしてみたい。
- ・コードを組み上げたりするのは楽しかったし、つかれたけど少しずつ完成していくのが楽しかった。
- ・プログラミングにふれたことがなかったけど、ふれるきっかけになりました。
- ・好きなゲームのMODを作ってみたり、新しいゲームをつくる仕事を将来してみたい。
- ・プログラミングのことがたくさん分かった。ちがうこうざもうけてみたい。
- ・とてもたのしかった。終わったあともここにきたい。
- ・しかくがとれてうれしかった。ゴールドはおちたけど、またちょうせんしたい。

◆保護者の声

- ・このような機会を頂きありがとうございました。資格をとって自信がついたようです。
- ・働いていて行けず、送迎をして頂いてとても助かりました。ありがとうございました。
- ・ほんとうに楽しそうで、大切な時間となっています。

(小学生を対象としたプログラミング講座等を行う団体)

◆高校生の声

- ・自分の経験したいこと知らなかったことを提供してくださって、とても自分のためになった。
- ・プログラミングをしっかりと学ぶことが出来て勉強になった。
- ・プログラミングだけではなく、実際の企業に見学し、社内や社員さんの話を聞くことができる貴重な体験があった。
- ・一人暮らしする時のお金の管理の仕方とか、効率的な奨学金の借り方など、プログラミング以外も学ぶことができた。
- ・メンターさん達が優しく、同じ目標を持つ同士がたくさんいて心強かった。
- ・人も空間もすごくアットホームな感じで、とても過ごしやすかった。
- ・大学生も高校生もすごく優しく、すごい人ばかりで、楽しすぎた。

(高校生を対象としたプログラミング学習支援やキャリア支援等を行う団体)

こどもたちや保護者の声

◆保護者の声

- ・新しい交友関係ができて、笑顔が増えたように思います。普段出来ない、色々な事を体験させて頂いてありがとうございます。
- ・親子共に学校に行くしかないと思っていたが、学校に代わる居場所ができて救われた。
- ・家にいることもしんどいようなので、居場所があることはとてもありがたい。安心して親も仕事に行くことができる。
- ・子どもの気持ちが安定し、自分から行きたいと思える場所になっている事にとっても有り難く思っています。
- ・本来学校で、経験するはずだった集団生活や、社会性がとても育まれていると思います。
- ・思春期の難しい時期ですが、ひとりひとりを受容し柔軟に対応してくださっている事で、安心して利用させてもらっています。
- ・大人と子どもが対等だと本人が話していました。子ども側がそう感じとれるスタッフの対応力は素晴らしいと思います。

(フリースクール運営団体)

◆保護者の声

- ・焚き火をしたり、山の散策に行ったり、ナイフを使わせてもらったりして、小学生の息子が楽しんでいる姿。親にはできないことを他の大人から教えてもらえるので、子どもにとって大変有意義な時間と体験だと感じています。
- ・我が子はほぼ週に一回ここに来る日しか外出しないので、親としてもとても嬉しいです。森の中での活動という点も、より魅力を感じます。川遊びは親一人ではとても見守りきれないのでありがたいです。私も森林浴でリフレッシュさせていただいています。

(ユースセンター運営団体)

◆進路説明会に参加した保護者の声

- ・子供が不登校のため、情報を集める場所が学校にはならず、ネットも情報が多すぎて困っていた。このような機会に参加できて良かった。
- ・私の世代ではあまりなかった定時制や通信学校にはイメージが沸きにくかったのですが、お話を聞いてイメージが沸きました。不登校で不安の中それでも行ける場所があるのは親子共にありがたく思っております。

◆就労準備の支援講座に参加した若者や保護者の声

- ・求人・求職バランスシートを初めて見ました。有効求人倍率が職種によってこんなに差があるものだと知りました。
- ・仕事に対してこれまではなんとなく「ただ働く」くらいにしか考えてみませんでしたが、今回を通して正しい仕事の選び方を少しつかめたような感じがしました。

(若者を対象とした居場所の提供や相談支援を行う団体)

◆保護者の声

- ・間違いなく子供の居場所になっていました。学校や家では出来ないことを経験させて頂き、家庭の事情で習い事をさせてあげられず、あまり出かける事も出来ない環境で子供達に申し訳ないと思いつつ、ここでの経験は本当に有り難かったです。本当に感謝しています。
- ・このような環境は親にとっても心の余裕をもたせてくれる場所、時間なのでぜひまた復活してほしいです。
- ・スタッフの皆さんにはいつも子供たちを温かく見守っていただき、深く感謝いたします。子供だけではなく、親の私も固定観念にとらわれずに子供を見守る大切さを教えていただきました。

(居場所の提供・相談支援を行う団体)

◆保護者の声

- ・普段間近で体験することのない体験をありがとうございました。マジックショー面白くて親子共に最後まで目が離せなくて楽しめました！次回もあれば参加したいです！
- ・みんなを楽しませようとされているスタッフの皆さんのあたたかい気持ちが伝わってきました。プレゼントもたくさんいただいて、こんなにいただいていいのだろうかと驚くほどでした。感謝しかありません。
- ・焼肉はめったに食べないし、外気に触れながら大勢で同じ食事をいただく事もないため、嬉しいです。
- ・私たちのために、沢山の品々やイベントを用意、準備してくださりありがとうございました。とても充実した時間を過ごすことができました。離婚や離婚後の手続き等で沢山嫌な思いをしていたので、このような暖かいイベントを開催して頂き、救われたような気がしました。本当にありがとうございました。

(シングルマザー対象のイベント等を通じて居場所の提供・相談支援を行う団体)

こどもたちや保護者の声

◆保護者の声

- ・とても楽しく、一家族では体験させられないような経験が出来ました。ありがとうございました。
 - ・年末のとても良い思い出ができました。来年もよろしくお願いします。
 - ・今年も参加出来て、楽しかったです。門松や竹筒等、普段体験出来ないことが親子共々新鮮でありがたいです。
 - ・大人も夢中で楽しく作らせてもらえました。子どもも喜んで作っていました。ありがとうございました。
- (季節イベント等を行う学習支援団体)

◆保護者の声

- ・遊ぶ場所難民には、ひろばが開いていてとてもうれしいです。
 - ・家ではできない体験ができる遊びはありがたいです。子どもも楽しそうで自分も嬉しいです。
 - ・服やおやつをいただいて大変助かっています。
 - ・ここにきてちょっと雑談をするだけで心が救われる。
 - ・普段、子どもといるだけなので、会話できる人がいて気持ち的に助けられます。
 - ・引っ越してきて友人もいないので、「おかえり」と実家のように迎え入れてくれてあたたかい居場所です。
 - ・知り合いがいなくて不安だったが、何かあった時に相談できる場所があると安心できるようになった。
 - ・一人では息詰まる子育ても、仲間がいると思えて嬉しいです。
 - ・子どもだけでなく、母である私もほめてもらうことができ、実家に帰ってきたような温かい気持ちになり毎日の励みになっています。
- (居場所の提供・相談支援を行う団体)

◆こどもたちの声

- ・野菜をいっぱい食べられるようになった。
 - ・野菜は、家では食べないけど、みんなと一緒に食べられた。
 - ・魚が嫌いだったけど、食べてみたら美味しかった。
 - ・野菜チャレンジのご褒美お菓子やおやつ作りが楽しかった。
 - ・手伝ったら褒めてもらえた。
- (こども食堂等の運営団体)

◆保護者の声

- ・夏休みがもうすぐなので少しでも今は節約をと思っていた矢先のフードパントリー、とてもうれしかったです。
- ・何を買うにも高くなっていて、安いものかと考えて買っている中、たくさんの食糧や子どもがよろこぶお菓子やジュースなど、日用品まで本当にありがとうございます。
- ・駄菓子、綿菓子作り、スノードーム、ビンゴ、子どもの好きなものばかりで初めて体験するものもあり楽しそうでした。
- ・スノードーム作りやぬりえ、綿あめも自分で作れて、たくさんお菓子ももらえて、初めてビンゴ大会にも参加して、とっても楽しかったと言っていました。無料でこんなにたくさん体験させていただいてもありがたかったです。
- ・給料日前とかは食事の量など減ったりするし、お菓子や果物など買えなくなったりするので、皆様からのご支援に感謝しています。

(フードパントリーや生活相談等の支援を行う団体)

◆保護者の声

- ・私が家族を支えなければという気持ちが強く体調不良を薬や栄養ドリンクなどでごまかしていたが、支援してもらって心のゆとりができた。
- ・スタッフが毎回様子を聞いてくれるので、何か困った時に、家族以外に相談できるのはとても安心します。
- ・頑張る力と笑顔が増えました。
- ・食材支援もすごく必要ですが、私にとって1番相談出来る場所だと思ってます。

(食材の宅配を通じた相談支援を行う団体)

◆こどもたちの声

- ・みんなでごはんを食べるのがたのしい!また来たい!
- ・家では一人で食べることが多いけど、ここでは友だちができた。
- ・知らない人とも話せるようになった。やさしくしてくれてうれしい。
- ・ゲームできて、遊べるのがいい。

◆保護者の声

- ・生活が苦しい中での支援は本当に助かります。感謝しかありません。
- ・月に一度の配布が心の支えになっています。継続してほしいです。

(こども食堂や食材配布を行う団体)

「令和6年度 未来応援ネットワーク事業」支援団体一覧

- ① 様々な学びを支援する事業
- ② 居場所の提供・相談支援を行う事業
- ③ 衣食住など生活の支援を行う事業
- ④ 児童又はその保護者の就労を支援する事業
- ⑤ 児童養護施設等の退所者等や里親・特別養子縁組に関する支援事業
- ⑥ 新たな社会課題や支援ニーズに対応した事業
- ⑦ その他、貧困の連鎖の解消につながる事業や、こどもの貧困の背景に存在する様々な社会的要因の解消にも資する事業

(※団体情報：令和7年10月時点、支援金額：採択決定時の金額)

都道府県	団体名	類型	事業名	支援金額 (千円)
北海道	くっちゃん子ども子育て応援し隊 Popke Lab	②	地域でこどものココロとカラダ支援事業	3,000
	特定非営利活動法人 陽だまりの家	②	福祉と心理の専門職が子どもの安心と未来を支える子どもの居場所事業	3,000
	NPO法人 学習支援ループス	①	学習支援事業	1,000
	特定非営利活動法人 くるくるネット	②	子ども食堂・食材無料配布・学生ボランティアの学習支援の開催事業	1,000
	いかすい	①	地域全体で支える仕組みを作り、子供達の「今」をサポートする事業	300
岩手県	特定非営利活動法人 Future Seeds	③	ひとり親世帯等サポートプロジェクト事業	3,000
宮城県	一般社団法人 みちのさき	②	家族で学べる子どもの居場所 未来を育む子ども図書館事業	2,939
	シンフォニー花立	②	大人が見守り、子どもが気軽に安全に無料で過ごせる居場所づくり事業	300
	一般社団法人 復興支援土業ネットワーク	①	居場所づくりを兼ねた子ども食堂事業	1,000
山形県	NPO法人 やまがた絆の架け橋ネットワーク	③	ひとり親家庭及び生活困窮家庭支援事業	3,000
	認定特定非営利活動法人 発達支援研究センター	②	義務教育終了後から社会へつなぐ切れ目のない支援事業	3,000
福島県	一般社団法人 あんだんて	②	地域に広げよう！第三の居場所事業	3,000
茨城県	もりサボ塾	①	事情により塾に通えない中学生への学習支援事業	300
栃木県	一般社団法人 こども食堂ノエル	③	鹿沼市児童扶養手当受給世帯への食事、学習、生活、相談支援事業	3,000
	特定非営利活動法人 子どもの居場所OZ	③	食の循環を安定した支援につなげるフードロータリー事業	3,000
群馬県	特定非営利活動法人 虹色の会よっちゃん家井野川	②	生活困窮するひとり親家庭等へのフードパントリーと親子の居場所事業	1,000
埼玉県	特定非営利活動法人 わわわ工房	②	すべての子どもたちのための、第三の居場所づくり・学習支援事業	3,000
	NPO法人 子ども地域ネットワーク所沢	②	きみの居場所事業	3,000
	特定非営利活動法人 こどもの居場所づくり in かわぐち	⑦	生活困窮・一人親子育て世帯へのオムツ宅配見守り事業	2,550
	特定非営利活動法人 彩の子ネットワーク	③	「おおきくなったね!×おおきくなってね!」子ども服交歓会事業	688
	特定非営利活動法人 親子ふれあい教育研究所	⑥	「わくわく体験学習」を通じて、創る・作る・助け合いの心を学ぶ事業	1,000
	十文字学園女子大学生生活環境研究所	②	地域における「支えあい」を生み出す「みんなの居場所づくり」事業	1,000
	NPO法人 オハナプロジェクト	③	オハナ子育て応援フードパントリー&こども宅食事業	300
	川越子ども応援パントリー	⑥	子どもたちの夢をキャンパスにのせて企業へ貸し出す事業	1,000

都道府県	団体名	類型	事業名	支援金額 (千円)
千葉県	特定非営利活動法人 想創	①	困難を抱える子供が安心して食事や習い事が出来る場所を作る事業	3,000
	一般社団法人 カザグルマ	②	子どもの居場所づくり事業	2,801
	一般社団法人 BRIGHT	③	千葉こども宅食プロジェクト事業	1,000
東京都	一般社団法人 みらいの	②	子どもと保護者の生き生きとした生活のための食の支援事業	744
	特定非営利活動法人 寺子屋子ども食堂・王子	①	学校に行けてない中学生に地域みんなで実施する週5日の支援事業	3,000
	特定非営利活動法人 いつひよファミリー・育はぐ	⑦	未来を育む「親子の居場所作り」事業	3,000
	あじさいの集い富士見	⑥	ヤングケアラーの理解と支援、貧困家庭等の子供の居場所と食支援事業	2,092
	特定非営利活動法人 バディチーム	②	アウトリーチ連動型親子に寄り添う小さな居場所事業	3,000
	特定非営利活動法人 日本教育再興連盟	②	貧困状態のギフテッド傾向がある子どもとその保護者の居場所支援事業	3,000
	特定非営利活動法人 パルシック	②	食と体験の場を地域に開き地域社会が支える子どもの居場所づくり事業	3,000
	特定非営利活動法人 トイミッケ	③	居所喪失の子どもが駆け込める市民連携の緊急支援スポット設置事業	1,000
	せたがやこどもフードパントリー実行委員会	③	食を通じたアウトリーチ支援事業	1,000
	特定非営利活動法人 日本ピーススマイル協会	②	青少年心の居場所と無料学習支援及び育児サポート事業	1,000
	フードバンク大田	⑦	学習と生活を応援し、子供たちが「自分達で過ごす居場所づくり」事業	1,000
	特定非営利活動法人 アンリーシュ	⑥	医療機器を必要とする子供たちの就学環境改善支援事業	1,000
神奈川県	特定非営利活動法人 フードバンク浜っ子南	③	フードバンクが結ぶこども食支援ネットワーク事業	1,000
	横須賀なかま食堂	②	子ども支援事業	1,000
新潟県	特定非営利活動法人 フードバンクつばめ	③	憩いの場 分水フードパントリー事業	1,000
富山県	一般社団法人 ゆい社会福祉士共同事務所	③	貧困の連鎖を解消するための子育て世代への食糧品等の支援事業	1,000
石川県	NPO法人 WEKプロジェクト	②	子どもの「えがお」応援プロジェクト事業	2,587
	笑顔のこども食堂ネットワークGOHAN	③	子どもの居場所の確保と夢をあきらめない学習支援事業	1,000
	NPO制服バンク石川	③	制服で困る子供達に制服や食材の無償提供事業	1,000
福井県	特定非営利活動法人 BRICOLAB	①	外国ルーツの親を持つ子どもたちを含めた無料の学習支援事業	1,000
長野県	特定非営利活動法人 末広プロジェクト	②	みんなの居場所(学習支援、食事支援、食料支援、あそび支援)事業	1,449
	学習支援センター実帰舎	①	貧困と病弱から希望をつなぐ戦いとしての学習支援事業	300
岐阜県	一般社団法人 よだか総合研究所	②	中山間地域の不登校児等を対象とした森と古民家のユースセンター事業	3,000
	横屋のえんがわプロジェクト	②	よこやのまなびば事業	300
静岡県	荻寺子屋	③	2024年度を貧困家庭等の子どもの居場所を拡大する年にする事業	1,000
	Asanoha	③	地域を繋げるみんなの朝給食事業	1,000

都道府県	団体名	類型	事業名	支援金額 (千円)
愛知県	認定NPO法人 LivEquality HUB	③	逆境的体験を経た子どもたちの成長を地域で見守る体制づくり事業	3,000
	特定非営利活動法人 しんしろドリーム荘	①	プログラミング学習でこどもの非認知能力を高め貧困連鎖を断つ事業	3,000
	NPO法人 はぐくみ	③	やとみ子どもの居場所「はぐくみこども食堂」事業	3,000
	一般社団法人 愛知子ども応援プロジェクト	②	こども食堂&まちかど保健室 コラボ事業	2,986
	一般社団法人 草の根ささえあいプロジェクト	②	孤立する10代と気にかける大人が交わるプラットフォーム事業	3,000
	愛知夜間中学を語る会	①	自主夜間中学という名の学習および居場所支援事業	300
	任意団体L. s. W	②	子ども食堂サークル クロッカスで、あたたかい食事を食べよう!事業	300
	特定非営利活動法人 たんぼぼの風	②	フリースクールの運営担い手の確保と困窮世帯も利用できる仕組み事業	1,000
三重県	NPO法人 学び場子ども食堂	①	無料学習塾運営及び無料子ども食堂運営、フードパントリー運営事業	2,155
滋賀県	あそび家	②	あそび家くまぐま事業	300
京都府	認定NPO法人 セカンドハーベスト京都	③	こども支援プロジェクト事業	3,000
	ママキラ☆プロジェクト	⑥	ヤングケアラー(若者)居場所、やりがい、健康プロジェクト事業	1,000
大阪府	地産地消こども食堂	③	地産地消型の子ども食堂事業	700
	特定非営利活動法人 輝	①	ほっとな居場所でのマナビング事業	2,516
	NPO法人 いいねぎーたん実行委員会	③	食の提供(子ども食堂) 居場所作り(まちかど保健室)事業	2,484
	特定非営利活動法人 キリンこども応援団	①	公共冷蔵庫の食材支援を食事・学習支援に繋げ貧困連鎖を解消する事業	3,000
	一般社団法人 こみらい	①	不登校生徒への個別学習支援・居場所支援事業	3,000
	認定NPO法人 CLACK	⑦	困難を抱える高校生に対するプログラミング学習・キャリア支援事業	3,000
	みんなのIBASYOプロジェクト	②	みんなのIBASYOプロジェクト事業	2,219
	一般社団法人 タウンスペースWAKWAK	①	地域に潜在する声なきSOSを発見し、地域の包括支援につなぐ事業	2,980
	サークルころころ	⑥	こども食堂&学習支援「ころころひろば」事業	300
	ママの居場所作り隊	②	西九条一丁目ほっと一息ママラウンジ事業	300
	特定非営利活動法人 ぴよぴよ会	③	こどもを誰ひとり取りこぼさないための、こどもファースト事業	1,000
	J-Love こども食堂	②	こども食堂事業	300
	しぶちー	②	生きづらさを抱えている子どもたちに居場所と体験を提供する事業	1,000
	東深井つどいば食堂ふらっと	②	こどもの学習支援/地域の集い場作りと子育て親子の地域相談窓口事業	1,000
	一般社団法人 こもれび	④	子どもと地域社会をつなぐ事業	1,000
	兵庫県	特定非営利活動法人 スマイルポケット	⑦	困窮や課題を抱える世帯の子どもを笑顔にする、宅配による見守り事業
Salt of the Earth		①	子どもの居場所&学び場づくり事業	3,000
健康育児相談所		③	みんな笑顔プロジェクト事業	1,000
特定非営利活動法人 フードバンクはりま		③	生活困窮者や福祉施設等に食材を届けるフードバンク事業	300

都道府県	団体名	類型	事業名	支援金額 (千円)
奈良県	一般社団法人 はなまる	②	皆の居場所アートなドリンクスタンドの活動をもっと広げて伝える事業	2,718
	特定非営利活動法人 子育て家庭保育看護協会	⑥	多胎家庭支援事業	1,000
和歌山県	Kitchen夢小屋	①	子ども食堂(供食の場の提供)事業	300
	サークル「もぐもぐ」	③	かつらぎ未来のたまご応援事業	1,000
鳥取県	一般社団法人 みんなの実家	②	地域の居場所における保護者啓発活動事業	3,000
広島県	特定非営利活動法人 こどもステーション	③	生活困窮家庭の子どもたちを地域で支える事業	3,000
徳島県	一般社団法人 うみのこてらす	②	過疎地の子ども・若者を切れ目なく支える地域のハブ拠点事業	3,000
	特定非営利活動法人 スポーツ巡回ネットワーク	①	すべての子どもにスポーツとスマイルランチを届ける事業	1,000
香川県	特定非営利活動法人 子どもたちの未来を応援するオアシス丸亀	③	子どもたちを守るフードバンクとひきこもりからの転生を応援する事業	3,000
	特定非営利活動法人 STEAM教育Lab. 미래の風	①	様々な特性や環境をもつ子がSTEAM教育を通して自分を活かす事業	3,000
	一般社団法人 小豆島子ども・若者支援機構	⑦	持続可能な地域社会のための自分らしい社会参加をめざす応援事業	3,000
	特定非営利活動法人 あおぞら	②	多度津町では唯一の多世代交流型こどもの居場所づくりの推進事業	3,000
	きかざりMADE協会	①	キッズクラフト教室事業	1,000
	特定非営利活動法人 クリエイト	③	ごはんで始まる居場所、地域に開かれたフリースクール事業	1,000
高知県	一般社団法人 虹の花	③	子ども食堂におけるセーフティネットの構築・拡充事業	1,000
福岡県	社会福祉法人 中間市社会福祉協議会	③	子育て世帯等への食と抛り所支援事業	2,109
	ふくおか子ども食堂ネットワーク	③	ひとり親家庭支援による子ども食堂機能強化事業	3,000
	特定非営利活動法人 舞台アート工房・劇列車	⑦	パペットシアターPROJECT事業	1,966
	特定非営利活動法人 フードバンク北九州ライフアゲイン	③	笑顔いっぱい! 子どもたちの未来を守り育てる親子まるごと支援事業	3,000
	特定非営利活動法人 いとしま児童クラブ	②	平日毎日これる こどもの居場所提供・相談支援事業	3,000
	一般社団法人 Kids Code Club	①	貧困の連鎖を断ち切るためのIT学習サポート事業	3,000
	一般社団法人 CIRCLE	③	すべてのこどもたちが自分らしく生きる居場所づくり事業	1,000
	一般社団法人 福祉とデザイン	⑤	フォスタリングカードキットの検証を通じた里親養育支援の追究事業	1,000
佐賀県	特定非営利活動法人 十月の森	①	基礎学力と仕事につながる知識を身につけて、貧困をぶっ飛ばせ事業	2,867
	子育てサロンぼかぼかハウス	②	こどもの貧困対策と居場所づくりによる地域のつながり構築事業	300
長崎県	特定非営利活動法人 フリースクール クレイン・ハーバー	⑦	経済的困窮世帯の子ども向け無料学習塾事業	3,000
	NPO法人 ハッピーサポートプリママ	⑦	困難を抱える親子のためのフードパントリーとステップハウス事業	1,000
	YY子ども食堂	③	朝食欠食児童に朝食を提供する事業及び困窮者向け昼食の提供事業	1,000
	つながる長崎	⑦	地域つながる食応援事業	1,000

都道府県	団体名	類型	事業名	支援金額 (千円)
熊本県	一般社団法人 シンママ熊本応援団	②	シングルマザーと子どもに対する生活応援と孤立予防(居場所)事業	3,000
	社会福祉法人 玉医会	⑥	「義務教育終了後所属のない子ども」のひきこもり長期化防止事業	3,000
	一般社団法人 ネイチャー・サイエンススクール	①	ひとり親家庭や困窮家庭を中心とした居場所づくり事業	1,000
宮崎県	一般社団法人 HUG	①	学習支援および不登校対策事業	2,158
	こども未来応援団体 タテヨコナメ	①	昼立 ひる学校(フリースクール)事業	3,000
鹿児島県	特定非営利活動法人 フードバンクかごしま	⑦	子どもや若者を守る社会的つながり構築支援事業	2,999
沖縄県	一般社団法人 虹のまほろ場	⑦	「そうだ、ぼんぼんに聞いてみよう」夜間子ども預かり兼相談支援事業	2,986
	一般社団法人 よなばーる	⑦	中高生・若者のための安心安全な第三の居場所づくり事業	2,946
	沖縄ICTキッズプロジェクト	①	ドローンを活用したプログラミング教室事業	2,968

ご協力いただいた企業

多くの企業や個人の方から、様々な方法でご協力いただきました。その一部をご紹介します。

店頭募金等のご協力



※写真は令和8年2月撮影

株式会社きんぎょ番屋は、全ての直営店において募金活動にご協力くださいました。また、こどもの未来応援基金への寄付に加え、企業と支援団体を結ぶ「マッチングネットワーク推進協議会」を通じ、各地の学習支援団体へパソコンや問題集等のご寄付もいただきました。

ポイント等を通じた寄付のご協力



株式会社NTTドコモは、dポイント・d払いによる寄付の仕組みを通じて、「こどもの未来応援基金」にご協力くださいました。1ポイント(=1円)から寄付することができ、「こどもの未来応援基金」などの活動に役立てられています。

寄付型自動販売機設置のご協力



清水建設株式会社は、本社ビルのほか、一部の支店や大型建設現場において、飲料を1本購入するごとに10円が寄付される自動販売機を設置しています。さらに本社ビルでは、自動販売機による寄付と同額を企業も寄付するマッチングギフト制度を導入し、「こどもの未来応援基金」へご支援くださいました。

寄付付き商品等を通じた寄付のご協力



サッカーJ2リーグの横浜FCを運営する株式会社横浜フリエスポーツクラブは、横浜市内のパン屋や和菓子店と協力して、横浜FCのオフィシャルクラブマスコット「フリ丸」の焼き印をつけた寄付付きパンや、どら焼きを開発。売上げの一部を「こどもの未来応援基金」に寄付していただきました。

本などの買取査定額の寄付を通じたご協力



株式会社バリューブックスは、本やDVDなどの買取査定額を様々な社会貢献団体に寄付する「チャリボン」の仕組みを活用した「こどものみらい古本募金」を通じて、「こどもの未来応援基金」にご協力くださいました。

ご協力いただいた企業

令和6年度も、多くの企業・団体・個人の方からご寄付等のご協力をいただきました。その一部をご紹介します。



株式会社カプコン



株式会社壱番屋



株式会社北海道銀行



株式会社NTTドコモ



株式会社イトーヨーカ堂



公益社団法人
24時間テレビ チャリティ委員会



東亜合成株式会社



清水建設株式会社



サントリー食品
インターナショナル株式会社



株式会社バリューブックス



株式会社千趣会



株式会社オリエンタルランド



JFEホールディングス株式会社



株式会社 ストラテジックキャピタル



日本軽金属株式会社



明治ホールディングス株式会社



株式会社大和証券グループ本社



日本精工株式会社



株式会社デニーズジャパン



株式会社オランダ家



横浜幸銀信用組合



三菱食品株式会社



株式会社サンクラッド



一般社団法人アズビル山武財団



株式会社サンセイランディック
株式会社サンセイランディック



日油株式会社



日本石材センター株式会社



富士テレコム株式会社



株式会社ライジングサン商会



株式会社渡辺商行



こどもの未来は日本の未来

基金についてのお問合せ先

独立行政法人福祉医療機構
TEL:03-3438-0211(大代表)

事業全般についてのお問合せ先

こども家庭庁支援局家庭福祉課
TEL:03-6771-8030(大代表)

■ホームページやFacebookで最新の活動について情報を発信しています。

こどもの未来応援国民運動 ホームページ

こどもの未来応援国民運動 Facebook

こどもの未来 応援

